PanoForgeで360度背景を作る

一枚の画像または文章から、全方位を見渡せる背景へ。

PanoForge / 360° AI Panorama Generatorは、文章から元画像を作る経路と、手持ちの画像を読み込む経路があります。元画像から360度の正距円筒パノラマを作り、内蔵ビューワーで見回して保存します。

工程	操作
入力	画像をドロップ、またはテキストから元画像を生成
拡張	元画像から360度パノラマを作る
確認	ビューワーで全方向と左右のつなぎ目を確認
保存	360度画像または現在の視点を保存

WindowsではNode.jsを導入し、ZIPを展開して start_panorama_generator.bat をダブルクリックします。準備ができると既定のブラウザーにPanoForgeが開きます。

PanoForgeを開く →

元画像を用意する

画像を読み込むか、シーンと画風から一枚絵を生成します。

API設定でGeminiまたはOpenAIのキーを入力します。キーは現在のページのメモリだけに保持し、再読み込みや終了後には再入力します。OpenAI文章・画像解析モデルの既定はGPT-6 Lunaです。

「画像をドロップ」では手元の画像を読み込みます。「テキストから生成」ではシーンの説明と画風を選び、必要に応じて自由入力やAI提案を使って元画像を生成します。OpenAIの元画像サイズは1536×1024です。

2:1の画像を読み込んだときは、360度画像として開くか等の検出ダイアログを確認します。比率だけで画像の投影や左右の連続性まで保証されるわけではありません。

元画像を確認してから360度への拡張を実行します。人物や重要な道具がある場合は、出力後に欠落・複製・形の変化を見ます。

> OpenAI画像生成・補正はGPT Image 2.6 Sunburst / xhigh、Gemini画像はNano Banana 2.1の経路です。文章提案や画像解析と、画像生成のモデルは別です。

パノラマを作り、全方向を確認する

正面だけでなく、背面・床・天井・つなぎ目を確認します。

拡張処理は元画像から主要物体、開口部、建築、光等の空間台帳を作り、その内容を生成と検査へ引き継ぎます。OpenAIのパノラマは2048×1024です。

生成後は連続性を検査し、必要な場合は最大1回の補正を行う経路があります。つなぎ目の不具合にはマスク編集を使う場合があります。APIの成功や検査合格だけで完成を決めず、ビューワーで実物を確認します。

ドラッグで視点を移動し、マウスホイールで視野角を変えます。自動回転や全画面を必要に応じて使い、左右のつながり、壁・床・天井、家具、光、同じ道具の重複を見ます。

OpenAI拡張には解析・生成・検査・補正が含まれます。各OpenAI画像リクエストの上限は600秒です。失敗時は表示された原因を確認し、検査対象画像を保存できる場合は切り分けに使います。旧画像モデルへの自動切替はありません。

360度画像とキャプチャを保存する

全周の画像と、切り出した視点画像は別の成果物です。

「360° 画像を保存」では正距円筒の全周画像を保存します。360度JPEGにはGPano XMP情報を付ける仕組みがありますが、受け取るサービスやビューアーによって扱いは異なります。

「キャプチャ保存（1920×1080）」では、現在のビューワー視点を通常のPNG画像として保存します。特定の向きだけを漫画背景等に使いたい場合と、全周を再利用する場合を使い分けます。

Super FURU AI 4-koma Systemの360度背景として使う場合は、全周の正距円筒画像を保存してSTEP1へ読み込みます。キャプチャ画像と全周画像を取り違えないようにします。リンクを開くだけで画像が転送されるわけではありません。

保存するもの	用途
全周の360度画像	パノラマ再表示、対応アプリの360度背景
現在視点のPNG	通常背景画像、説明や比較
検査対象PNG	不具合の切り分け。完成版と区別して保管

Super FURU AI 4-koma System →

OpenAI・Gemini API設定ガイド →

AI通信を強制切断する

思考待ち・応答受信中の通信と後続処理を止めます。

手動操作では、上段右の「AI通信を強制切断」を処理中に使えます。MCP接続中は、右端の「停止して手動に戻る」で処理の停止と接続の解除を行います。上段左のMCP導入ガイドから初回の接続手順を確認できます。

モデル説明・料金は選択欄の下で折り返します。長い説明が出てもヘッダーを横へ押し広げません。処理画面や作業中の設定画面でも、実行中の緊急停止へ届きます。

中断すると実行中の通信、後続のモデル切替・自動修正を止め、遅れて届く結果は採用しません。入力、接続済みのキー、採用済みの結果は保持します。

再実行は通常の生成・AI提案ボタンから始めます。前の処理の遅延結果は新しい実行へ混ぜません。

> 中断前に発生したAPI利用料金の返金を保証するものではありません。